



第137号

Web Fairy Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第116回 WFP 作品展(再掲)
- ・ 第117回 WFP 作品展
- ・ 推理将棋第122回出題
- ・ Fairy of the Forest #61

結果発表

- ・ 第115回 WFP 作品展
- ・ 推理将棋第120回解答

読み物

- ・ 第2回神無太郎の氾濫 解答編
- ・ 第1回不詰展示会(展示編)by 占魚亭



2019/11

はじめに

還暦

さて早いもので今年もあと1ヶ月とちょっととなりました。暑い夏が過ぎると通常は食欲の秋、スポーツの秋と心地よい季節の行楽シーズンのはずですが、この原稿を書いている19日は朝から肌寒く、もう冬の足音が聞こえてくるような気がします。(ちなみに藤井七段対広瀬竜王の一番が現在行われていますがどうなるのでしょうか・・・気になります)

Twitterにこんな記事を見つけました。

「子年生まれの方の運命」私は1960年2月生まれです。子年で来年還暦となります。(年を取ったものです) その記事によると・・・2019年は子年生まれの人にとって転換を迎える年です。特に2月生まれの方の変化は大きく、時に苦しみも伴いますが新たな成長と幸せが訪れます・・・」

来年は某組合の理事長になることが決まっております、確か転換の年だとは思っており、さすがに当たるもんですねと感心しておりました。

それを人に話すと、一言「2019年って今年じゃないですか・・・」

なんで今年の運勢が今流れてるの・・・てっきり来年のことだと思っていました。相変わらずの早とちりは直りませんね。

でも還暦といえば「赤いちゃんちゃんこ」なんです。どうしてなのでしょう？調べてみました。

赤には魔除けの意味があります。そのため、昔は産着に赤色が使われていました。また、ちゃんちゃんことは、子どもの袖なしの羽織のことです。先述した通り、還暦には生まれ直しという意味があります。この「赤ちゃんに戻る」ことから、赤色のちゃんちゃんこを贈るという慣習が生まれたようです。



作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第137号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々のHPアドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pub/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

占魚亭残日録

<https://sengyotei.hatenablog.com>

第116回WFP作品展(再掲)及び 第117回WFP作品展

担当：神無七郎

フェアリーとIT

今回はフェアリー詰将棋のルールに関する問題を取り上げました。これは内的・論理的な問題点への対応だったわけですが、今回は外的な問題点への対応について取り上げます。

1. 不完全作と同一作

フェアリー詰将棋で当初から問題になっていたのは、不完全作の多さでした。フェアリーは作者自身がルールに精通していないこともあり、普通詰将棋より不完全作が多かったのです。1980年代頃のフェアリーランドは月4作の出題が通例でしたが、その全てが不完全作という月もあり、担当者を大いに嘆かせたものです。

また、作品数が増えるに従い、同一作や類似作の問題も浮上してきました。作者、担当者によるチェックをすり抜け、解答者や他の作家による指摘で問題が判明するケースがちらほらと現れてきたのです。

2. 機械検討

不完全作への対策として有効なのが機械検討です。

1987年、まだ普通詰将棋でも、ろくな検討プログラムがない時代に、協力系のフェアリー詰将棋の検討プログラムである「f m」が誕生しました。作者は石黒俊太郎（神無次郎）氏。1992年にパソコンに移植され、無償での一般配布が始まったことにより、フェアリー詰将棋の不完全作は激減しました。

画期的なのはf mで「完全検討」ができたことでした。「全検完了」の出力は、作者に何よりの安心感をもたらします。性能や機能に一定の限界があったものの、その恩恵は計り知れませんでした。

機械検討の登場はフェアリー詰将棋の価値観や評価にも大きな影響を与えました。以前なら完全でありさえすれば一定の価値があった分野でも、完全なだけでは評価されなくなってしまったのです。未開の分野を開拓する場合、これは特に大きなことでした。

3. データベース

同一作の事前チェックに欠かせないのがデータベースです。これは普通詰将棋が先行していました(T-Base)。何しろ江戸時代から数十万局の作品が発表されていたわけですから、需要はフェアリーの比ではありません。最初に「データ入力委員会」が旗揚げされ、入力が始まったのは1994年10月のことだったそうです。

フェアリーデータベースのプロジェクトの始まりは2006年で、公開は2007年5月。その経緯は「おもちゃ箱」の「フェアリー詰将棋データベース」(http://toybox.tea-nifty.com/memo/2006/05/post_c0c6_1.html)にまとめられているので、ご参照ください。

フェアリーデータベースの運営はボランティア方式で、それを直接参照できるのは、その参加メンバーだけです。ただ、同一作（厳密に言えば同一図）のチェックはオープンで、誰でも利用できるようになっています。一般の利用者にとっては、これで充分でしょう。

4. 発表媒体

機械検討やデータベースは情報技術（IT）の発展に伴う環境の変化ですが、ITの発展は作品の発表の仕方にも影響を与えました。

インターネットが普及する以前、1980年代後半からパソコン通信が始まり、それまでミニコミ誌が担ってきた役割を、通信で代替できるようになりました。詰将棋は文字だけで十分にやりとりができるので、テキストベースの通信と親和性が高かったのです。

フェアリーでは1994年2月6日に「Online Fairy Mate」というパソコン通信によるミニコミ誌が発刊され、これはインターネットが普及した後の2006年まで続きました。

WFP誌も配布形態はパソコン通信の延長線上にありますが、本誌は「正式発表前の私的な限定公開の場」としてのミニコミ誌ではなく、「正式発表として広く一般に公開する場」という専門誌としての位置付けです。従来は「カピタン」が担ってきた、紙と郵便による配布を、ネットに置き換えたもの（要は手段が変わっただけ）と考えてください。

5. 課題

このように1990年代頃から、ITの変化がフェアリーにも大きな影響を与えるようになり

ました。しかし、ITがすべてを解決してくれるわけではありません。機械検討できない、あるいは、されていないルールでは、人力による検討が欠かせません。データベースも同様です。類作の検出には完全な解決策がありませんし、データを最新に保つには不断の努力が必要です。

発表媒体のIT化にも問題があります。正式発表と私的な限定公開の垣根が曖昧になったり、発表されたはずの作品がアカウントの停止やサービスの終了と共に“消失”したりする問題が起こるようになったのです。

ITはあくまで「手段」です。それが解決できる問題には一定の限界があることを忘れてはいけません。

さて、こうしてフェアリー詰将棋の歴史を簡単に紹介してきたこの連載ですが、次回で一応の最終回とします。この連載で取り上げなかった主な話題を列挙し、簡単なまとめを行いたいと思います。

では今月の出題です。今回は第116回の再掲載分と第117回の新規出題です。第117回は解答募集期間が通常より一ヶ月長くなります。ただし、年末年始は何かと慌ただしい期間ですし、年賀詰も出題されるため、あまり悠長にしていると解図時間はあっという間になくなってしまいうでしょう。この期間を有効に使って余裕のあるうちに解ける分から解いていきましょう。

〔第116回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第116回の出題は全12題。ツインが1題あるので実質13題です。内訳は占魚亭氏4題、変寝夢氏4題(実質5題)、一乗谷酔象氏1題、神無太郎氏2題、尾形充氏1題です。

Imitator絡みの作品や、複数のルールを組み合わせた作品がありますが、頭をよく整理し、適切な方針を立てて解図に臨んでください。

116-1～**116-4**は占魚亭氏の実験的作品群。「二玉詰」「中立駒」「Imitator」「All-in-Shogi」「点鏡」など、色々なルールの組み合わせが試されています。**116-1**は攻方の駒が1枚もありませんが大丈夫。受方の持駒は全部中立駒なので、「受先」の初手で発生させた駒を上手く使えば王手を掛けられます。それぞれの作品で、どのルールがどのように働くか、各ルールの相性は良いか悪いか……これらの作品を解いて皆さん

もご自分で感じてみてください。

(※追記)

116-4はAll-in-Shogiの指定により、最終手で攻方が受方の駒を動かすことができるので、ステイルメイトになりません。不詰のため、この作は解答募集の対象から除外します。

余裕のある方は、最終手に対しAll-in-Shogiを適用しないルール設定での解答・短評をお寄せください。結果稿には上記ルール設定での作意・解答・短評を収録します。

116-5、**116-6**、**116-11**、**116-12**は変寝夢氏の作品群。作稿の都合上、出題番号が離れてしまいましたが、ご了承ください。**116-5**と**116-6**は前回・前々回に引き続き「駒全マネ禁」の登場です。そろそろこのルールにも慣れましたでしょうか？ **116-6**は受方持駒制限があるので、解き易いと思います。**116-11**はGrasshopperと性能変化ルールの組み合わせ。難しそうに見えますが、実はごく一部を除いて手順はほぼ一本道です。**116-12**は中立駒入のレトロですが、これも受方持駒制限があるので、見た目よりは易しいはず。組局(ツイン)になっているので、できるだけ両方解いてください。

116-7は一乗谷酔象氏の推理将棋。実戦初形から不動駒なしで詰む最短手順を求めよという問題です。推理将棋仕立てになっていますが、趣旨は最短手数探索なので、条件1)2)だけを満たした解を準正解として1点計上し、すべての条件を満たした解を完全な正解として1点加点します。

116-8及び**116-9**は神無太郎氏の作品。元々は「第51回神無一族の氾濫」への投稿作でしたが、詰パラで出題するには難しすぎる(しかも詰パラ未登場のImitatorが使われている)ため、こちらに回して貰いました。もしかしたら今月の最難関かもしれません。

116-10は尾形充氏の最悪詰。今月唯一の対抗系ルールの作品です。前々回の最悪詰(**114-6**)よりは易しいはずなので、それが解けなかった方も、ぜひ本作にチャレンジしてください。

〔第117回作品展各題への補足説明〕

第117回の出題は全14題。内訳は占魚亭氏3題、神無太郎氏4題、高坂研氏3題、上谷直希氏1題、変寝夢氏2題、たくぼん氏1題です。

今回はImitatorを使った作品と、透明駒を使った作品が多く、これらのルールの習熟度によ

って解図時間は大きく変わりそうです。今回は解答募集期間が通常より一ヶ月長いので、この時間を有効に活用して解答をお寄せください。

117-1～117-3は占魚亭氏による「中立駒」と「Imitator」を組み合わせた作品群です。おそらくかなり難しいので一つヒントを出しておきましょう。中立駒で王手をするとき、うっかり自玉にも王手を掛ける反則をしやすいのですが、Imitatorを上手く利用すれば、双方の玉に王手が掛かっているように見えて、実は片方にしか王手が掛かっていない状態が作れます。そんな手を上手く使しましょう。

117-4～117-7は神無太郎氏のImitator作品。これらの作品群では中立駒は使われていないので、占魚亭氏の作品よりは解きやすいと思いますが、何しろImitatorですから、ヒントを出しておきましょう。「玉(王)がよく動きます」。

117-8～117-10は高坂研氏の透明駒作品。作者名から予想できるかもしれませんが、**117-8**は「逆算可能」であることが前提になっています。つまり逆算を続けてもどこかで行き詰まらないこと（実戦に透明駒はないので「実戦初形に逆算できること」とは違う表現にしました）を条件として透明駒の絞り込みに利用できます。

なお本作品展では特に注釈がない限り出題図が以下の条件を満たすことを仮定します。

- 1) 攻方手番であること
- 2) 標準の駒種、駒数であること
- 3) 二歩・行き所のない駒がないこと
- 4) 相手番の玉に王手が掛かっていないこと

これに当てはまらない場合や、追加の条件を要求する場合は、それが分かるようにして出題しますので、投稿される方は、あらかじめご承知おきください。

117-11は上谷直希氏の透明駒作品。高坂氏と同時にになったのは偶然ではなく、今年が透明駒誕生から10周年だからでしょう。

透明駒には色々と細かい注意点があります。持駒「なし」は透明駒以外の持駒が「なし」であるという意味だとか、受方の駒台は見えないことになっているとか、詰上り透明駒が持駒に残って駒余り扱いしない等の細則があるのです。疑問点があったら、上谷氏のまとめられた「透明駒はじめてガイド」(<http://fairypara.blog.fc2.com/blog-entry-136.html>)を参照してください。

117-12、117-13は変寝夢氏の「All-in-Shogi」

と「駒全マネ禁」。前者は詰上りを想定できれば、難しくないでしょう。「駒全マネ禁」は前回に引き続きの登場。このルールでは玉も「マネ禁」の例外でないことに留意して解いてください。

117-14はたくぼん氏の「石囲いシリーズ」の最新作。132手の長丁場ですが、途中で諦めず粘り強く取り組んでください。

解答要項

第116回分解答締切:2019年12月15日(日)

第117回分解答締切:2020年2月15日(土)

宛先: k7ro.ts@gmail.com (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月15日の投稿まで当月号に掲載します。)宛先は解答と同じ k7ro.ts@gmail.com へ。

メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

WFP 作品展: 年末年始の予定

来年1月は「氾濫」結果稿の作成と重なるため、WFP作品展12月号の新規出題と来年1月号の結果稿はお休みさせていただきます。

今後の予定は以下のようになりますので、あらかじめご承知ください。

	12月	1月	2月
第116回	結果		
第117回	再掲	再掲	結果
第118回		出題	再掲
第119回			出題

ルール説明

※WFPのページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule112.pdf>)があるので、それも参考にしてください。

【二玉詰】(または【多玉詰】)

複数の玉を使用する。

どの玉に対しても王手放置は禁手。

王手を外せなければ詰み。

→初出；第 41 回 WFP 作品展 (WFP45 号)

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【受先】

受方から指し始める。


【Imitator】(■または I)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

(補足)

- ・駒を打ったときは動かない。
- ・Imitator は元の駒と同時に動く

→参照：WFP75 号「Imitator の紹介」

【中立駒】(「」あるいは「n 駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる (利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

→参照：WFP61 号「中立駒の紹介」

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【点鏡】

55 に関して点对称な位置にある 2 つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

(補足)

- ・行き所のない駒の禁則は適用されない

→本誌初出：第 108 回 WFP 作品展(WFP127 号)

【All-in-Shogi】

双方とも、自分の手番のときに相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも 1 手前の局面に戻すような着手は禁手とする。

(補足)

- 1) 相手側の駒を動かすとき、自分側の駒を取らせることはできるが、相手側の駒を取らせることはできない
- 2) 相手側の駒で自分側の駒を取らせたとき、その駒は相手側の持駒となる
- 3) 自玉を取らせる手は反則

→参照：WFP122 号「All-In-Shogi の紹介」

【スタイルメイト】

王手は掛かっていないが合法手のない状態にする。

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。

【駒全マネ禁】

直前の指し手の駒種と同じ駒での着手を禁止する。

(補足)

- ・直前の指し手と同じ種類の駒を動かす手でしか詰みを回避するしかない場合や、玉を取る手にもこれを適用する。
- ・成駒と生駒は別種の駒として区別する。また、直前の手が「成」だった場合、成る前の駒種で判定する。

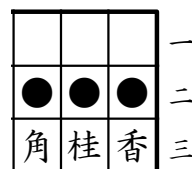
→参照：WFP132 号「駒全マネ禁詰の紹介」

【石】(●)

不透過・不可侵の領域を表す。

飛び越すことは可能。

3 2 1
 1 12 香や 11 香成は不可。
 2 22 角や 11 角は不可。
 3 11 桂成や 31 桂成は可。



【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【最悪詰】

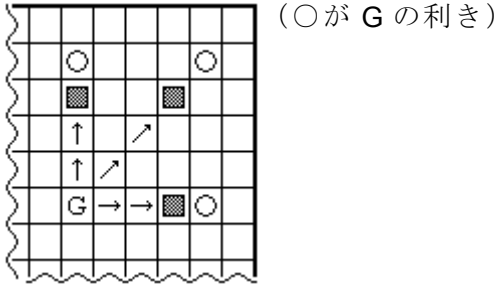
攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように応じる。

【対面】

敵駒と向かい合ったとき、互いに利きが入れ替わる。

【Grasshopper】(G)

フェアリーチェスの駒。クィーンの線上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



(補足)

- ・飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- ・パオと違って飛び越さないと動けない。
- ・動ける場所も飛び越えた駒の隣だけ。
- ・成ることはできない。
- ・2つ以上の駒は飛び越せない。

【レトロ -m+n 手】

m 手逆算して n 手で詰む手順を求める。

(補足)

- 1)特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2)協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数 of 逆算や短い手数の詰手順が成立する場合、それが優先される。

【透明駒】

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→参照：WFP83号「透明駒の紹介」

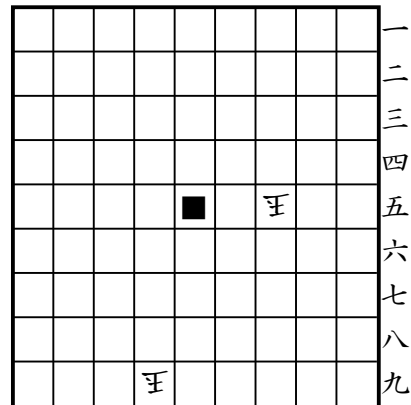


<第 116 回>解答締切:2019年12月15日(日)

■ 116-1 占魚亭氏作

二玉協力詰 4手 (受先)

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 なし

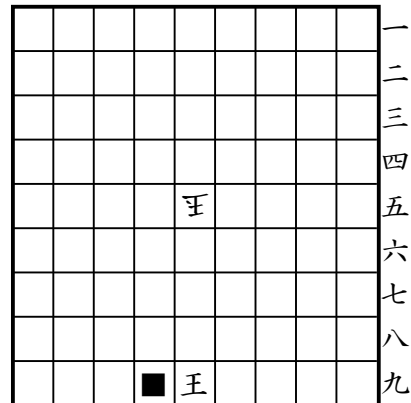
※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

■ 116-2 占魚亭氏作

協力白玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 n香

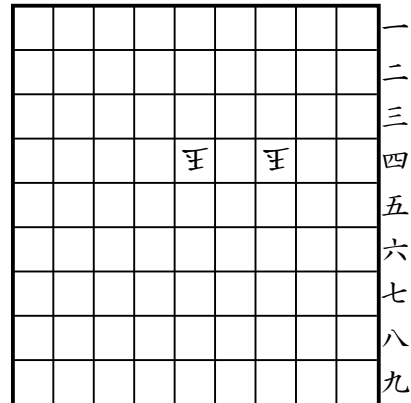
※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

■ 116-3 占魚亭氏作

点鏡二玉協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



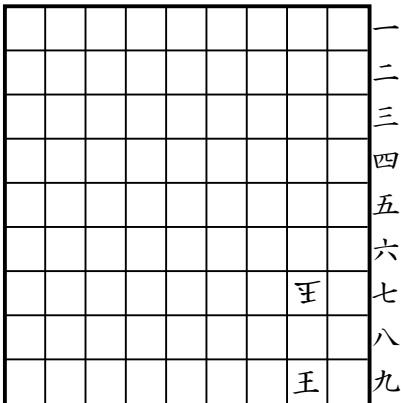
持駒 金2

■ 116-4 占魚亭氏作

点鏡All-in-Shogi

協力自玉スタイルメイト 4手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

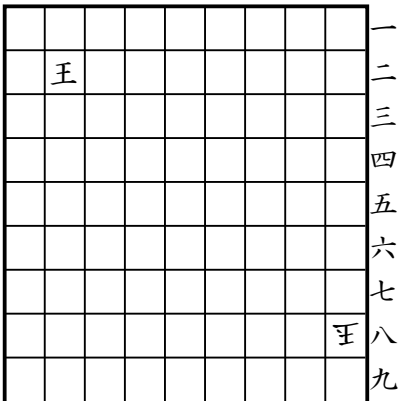


持駒 歩

■ 116-5 変寝夢氏作

駒全マネ禁協力自玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

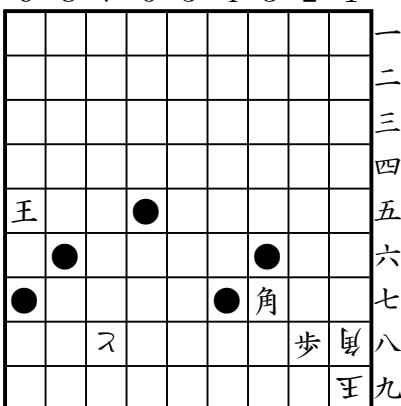


持駒 金香

■ 116-6 変寝夢氏作

駒全マネ禁協力自玉詰 12手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 なし

受方持駒 なし

※●:石 (着手不可、不透過)

■ 116-7 一乗谷醉象氏作

推理将棋『不動駒のない熱戦』

「34手目の初王手で詰まされちゃった。初手に歩を突かない作戦がまずかったかな」

「これが投了図か。盤上に不動駒が1枚もない！大熱戦だったね」

「この将棋、不成の手はなかったよ。こっちは金、玉、銀の順に続けて動かして困ったけどよくなかった。相手の金を寄る手がいい手だったな」

「玉の堅さに負けたんだね」

「相手は7回連続で馬を動かし、2回連続で桂を動かしてきた。巧くやられたよ」

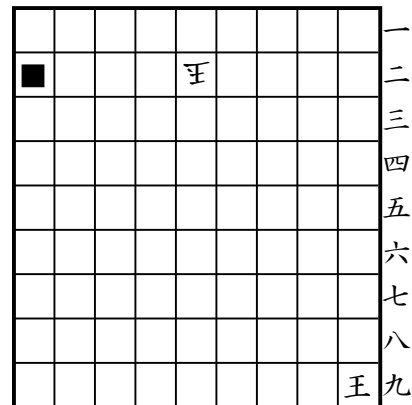
[条件]

- 1) 34手目の初王手で詰んだ
- 2) 終局盤面に不動駒はなかった
- 3) 初手は歩以外の駒を動かした
- 4) 先手は金、玉、銀の順に続けて動かした
- 5) 後手は金を寄った
- 6) 後手は7回連続で馬を動かした
- 7) 後手は2回連続で桂を動かした
- 8) 不成の手はなかった

■ 116-8 神無太郎氏作

協力自玉スタイルメイト 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 n角

※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

■ 116-9 神無太郎氏作

協力自玉スタイルメイト6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
						王		一
							■	二
								三
								四
								五
								六
								七
						王		八
								九

持駒 n飛

※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

■ 116-10 尾形充氏作

最悪詰 17手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
			科					三
			馬					四
								五
								六
							皇	七
								八
						香	王	九
						王		
						銀	歩	

持駒 なし

■ 116-11 変寝夢氏作

対面協力詰 21手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
王						歩	皇	二
							科	三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 G

※G:Grasshopper

■ 116-12 変寝夢氏作

a) レトロ協力詰 -4+1手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王	皇	一
							科		二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 飛

※42角は中立駒

b) レトロ協力詰 -4+1手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		一
							科		二
									三
							皇		四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし

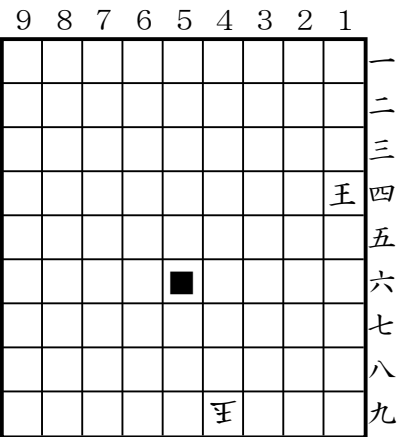
受方持駒 飛

※42角は中立駒



■ 117-7 神無太郎氏作

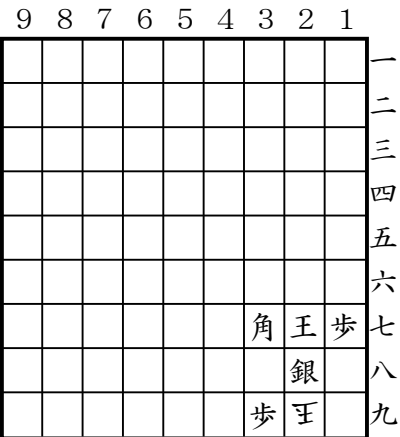
協力自玉スタイルメイト 8手



持駒 金
※■:Imitator

■ 117-8 高坂研氏作

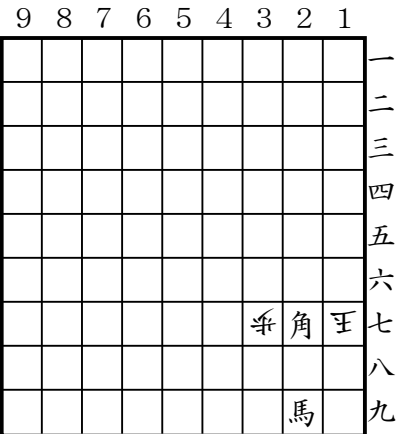
協力詰 1手



持駒 なし
※透明駒：攻方 1 枚、受方 0 枚
逆算可能であることを仮定

■ 117-9 高坂研氏作

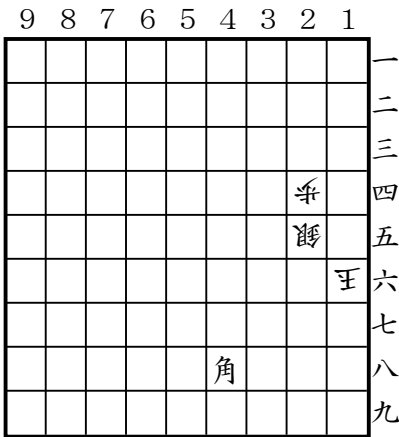
協力詰 5手



持駒 なし
※透明駒：攻方 1 枚、受方 1 枚

■ 117-10 高坂研氏作

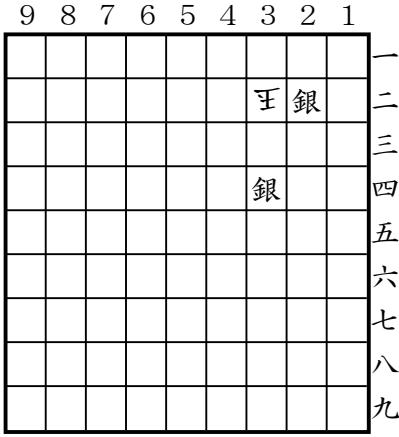
協力詰 5手



持駒 飛香
※透明駒：攻方 0 枚、受方 1 枚

■ 117-11 上谷直希氏作

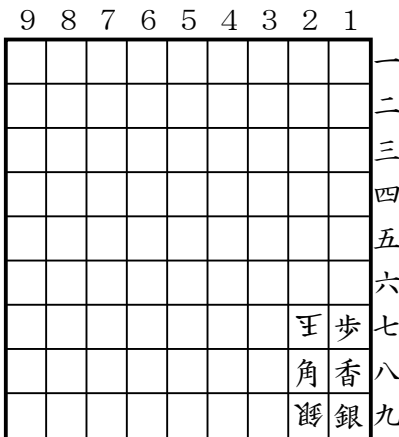
協力詰 5手



持駒 なし
※透明駒：攻方 2 枚、受方 2 枚

■ 117-12 変寝夢氏作

All-in-Shogi協力詰 5手



持駒 なし

■ 117-13 変寝夢氏作

駒全マネ禁協力白玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
		王							四
									五
									六
									七
									八
王									九

持駒 飛金

■ 117-14 たくぼん氏作

協力白玉詰 132手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
						糸			二
				●	●	●			三
			●	●		●	●		四
			●	王	角				五
		●	●		●	●			六
		●					飛		七
		●		歩		王			八
		●	●	●		桂	●		九

攻方持駒 なし

受方持駒 歩

※●:着手不可、不通過

以上



Fairy of the Forest #61 出題

- 2019年09月20日：課題発表：(協力詰)
「自由課題」
- 2019年11月15日：投稿締切
- 2019年11月20日：出題
- 2019年12月15日：解答締切
- 2019年12月20日：結果発表

■ 出題

相変わらず投稿作僅少ですが、たくぼんさんから2題をご投稿いただきました。あと1題は看空さんから。たくぼん作は受方持駒制限にご注意ください。

(解答先)
→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

■ 61-01 たくぼん

協力詰 11手

持駒 なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
										二
				と						三
		王								四
	飛									五
										六
			銀	又						七
										八
			王							九

持駒 なし

■ 61-02 小林看空

協力詰 35手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
										二
										三
										四
	香	香	香	香	香	皇				五
										六
		又	又							七
	王	又	又		又	皇	香			八
				雀			雀			九

持駒 桂4歩8

■ 61-03 たくぼん

協力詰 43手

持駒 なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
										二
										三
						銀	銀	香		四
				金	桂	桂	香	香		五
				歩		王	桂	角		六
				香		料				七
				香		歩				八
				玉			歩			九

持駒 なし

推理将棋第122回出題 (11/17 修正)

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第122回出題です。はじめての方は どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門 をごらんください。

解答、感想はメールで2019年12月10日までに TETSU まで (omochabako@nifty.com) メールの題名は「推理将棋第122回解答」でお願いします。

推理将棋第122回出題 担当 Pontamon

単純に手数で初級、中級、上級を分けている弊害でしょうか、前は初級の9手詰が思いのほか難しかったようです。今回の3題の構成は前回と同じ手数ですが難度は上がっているかも。

初級は担当からの9手で前回と同じ条件があります。2回の同は別の駒でしょうか、同じ駒でしょうか。中級はNAOさんからの10手詰。早く解かないと龍に追われる夢をみそうです。

上級の12手詰は初登場の緑衾さん作。同じ地点での駒取りと駒打ちを実現してください。

■ 本出題

122-1 初級 Pontamon 作

同じ対局? 9手

同が付く手を2連続で指すパターンを整理しよう。

122-2 中級 NAO 作

龍に終われる 10手

連続王手は龍を動かしての王手です。

122-3 上級 緑衾 作

三度目は駒打ち 12手

同じ地点で2回の駒取りと駒打ちをするにはどんな手順があるか考えよう。

122-1 初級 Pontamon 作

同じ対局? 9手

「7手目と9手目は同の手を指して9手で詰めたよ」

「その対局は最近聞いた記憶があるなあ」

「2手連続で大駒着手があったから君が聞いた対局とは違うと思うよ」

「2手連続と言うと、先手の着手の直後の後手着手か後手の着手の直後の先手着手ってことだね」

(条件)

- ・9手で詰み
- ・7手目と9手目は同の手
- ・2手連続での大駒着手があった(先後または後先の順の2手)

122-2 中級 NAO 作

龍に追われる 10手

「たったの10手で詰まされたって？」

「初の成る手を指されたので慌てて玉を逃げたんだけど、龍で連続王手を掛けられて参ったよ」

(条件)

- ・10手で詰んだ
- ・初の成る手に対して玉の手で応じた
- ・龍で連続王手を掛けた※

※龍の着手で連続王手を掛けたという意味です。

(担当補足 11月17日)

122-3 上級 緑衾 作

三度目は駒打ち 12手

(10手目まで進んだ後)

「ほほう、すでに後手は自分が不成で駒取りをしたマスで再び成りで駒取りをしているんだ」

「先手の方はすでに飛車の手とその直後の手を同じ筋に指しているね」

(さらに手が進んだ後)

「12手目に自分が2回駒取りをしたマスへ今度は駒を打ったよ。後手はよっぽどそのマスが好きなんだな。」

「その駒打ちが初王手でなんと詰んでいるね」

(条件)

- ・10手目の時点で後手は自分が不成で駒取りをしたマスで再び成りで駒取りをしていた
- ・10手目の時点で先手は飛車の手とその直後の手を同じ筋に指していた
- ・後手は12手目の自分が2回駒取りをしたマスへ駒を打つ初王手で詰ませた

■ 115-2 占魚亭氏作 (作意解 5 名) ※不詰
All-in-Shogi協力自玉スタイルメイト 4 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
							王		六
									七
									八
								王	九

持駒 飛

【作意】

47 飛 37 角 48v 角成 47 馬 まで 4 手

(最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
					王	王			七
									八
								王	九

持駒 なし

【作者のコメント】

試作その 2。

【解説】

前局と同じく、合駒自身に王手駒を取らせるパターンです。合駒が逆王手になっており、結果的に三連続王手になっているのも、前局と同様です。

合駒が角であるため 3 手目の動かし方はたくさんありそうですが、次に飛を取れる位置となると 46 か 48 しかありません。しかも「成」限定です。このうち 46 角成は王手放置の反則ですから、48 角成に限定されます。本局ではこの角の限定移動が、最大の見所と言って良いでしょう。

そして、角で取れるよう初手の飛の打場所も限定打になります。

前局との対応を考えると初形の 27 玉は 17 玉にしたいところですが、それだと角合の場所が 27 でも良くなってしまいます。さすがにそこまで欲張るのは無理というものです。

【短評】

変寝夢さん

4 6 角成はアウトですね。

たくぼんさん

取られる位置に打つ初手の限定打が見事。

■ 115-3 占魚亭氏作 (作意解 3 名) ※不詰
All-in-Shogi協力自玉スタイルメイト 6 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
								王	六
									七
									八
						王			九

持駒 香

【作意】

19 香 18 飛 58v 飛成 27 玉 18v 玉 19 玉
まで 6 手

(最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
						王			八
							王	王	九

持駒 なし

【作者のコメント】

試作その3。

通常だけだとイマイチなので、ステイルメイ
トの場合は変形ルールも加えた方がいいのかも。

【解説】

本局は手数が6手。115-1と同じパターンに
2手加えたもの…と考えてしまうと失敗します。
例えば以下の手順です。

19香 18飛 58v飛成 18金 28v金 19金
まで6手

いかにもそれらしい手順ですが、よく見ると
5手目28v金が自玉に王手を掛ける反則になっ
ています。All-in-Shogiは相手の駒を動かすので
自玉への王手も見逃しやすく、実際この手順で
の解答も複数ありました。

作意は玉を王手駒に向けて突進させて取っ
てしまうという、これまたAll-in-Shogiらしい
手順ですね。

作者のコメントにある、All-in-Shogiに性能変
化ルールを加えた作品は116-4で出題されてい
ますが、これも今回同様の理由で不詰です。不
詰のため解答募集の対象外ですが、余裕のある
方は116-4についても、All-in-Shogiを最終手
に対して適用しないルール設定での解答・短評
をお寄せください。

【短評】

変寝夢さん

先手の玉を中央にして、趣向ができたらい
いなあ。

たくぼんさん

ラスト3手の王のみ動いて香消去手順が絶
妙ですね。不詰が残念です。



■ 115-4 神無太郎氏作 (正解6名)
点鏡協力詰5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				王					一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 香3

【ルール】

• 協力詰

先後協力して最短手数で受方玉を詰める。

• 点鏡

55に関して点対称な位置にある2つの駒は、
敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わ
る。

(補足)

1)行き所のない駒の禁則は適用されない

本誌初出:第108回WFP作品展(WFP127号)

【解答】

58香 52玉 56香打 54玉 55香打
まで5手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
				王					四
				香					五
				香					六
									七
				香					八
									九

持駒 なし

【解説】

裸玉から詰上り「！」。

点鏡では対称位置の駒打ちの受けが主眼になることが多いので、5筋のみの着手で玉だけが動く手順は意外だったと思います。

点鏡らしく駒打ちの出てくる紛れを考えてみましょう。例えばこんな手順です。

54香 56歩 53香打 57歩 52香成 まで 5手？

これは最終手に対し**58角**や**58桂**で受かっています。王手駒を他の駒に変身させられると困るわけです。

点鏡で性能変化を免れる唯一の場所は**55**。

55香で詰ますには玉を香にする必要があります、その場所は**54**でなくてはなりません。そして玉が**54**に到達するには、玉を香にしないと間に合わない——作意の成立する仕組みを説明するとこうなるわけですが、香の利きを避けるどころか、香に向かって突進する玉の動きは、理屈抜きに面白いですね。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

合駒なしは全く思い浮かばなかった。
最終形を見誤るとなかなか解けませんね。

テイエムガンバさん

点鏡ルールの初心者向けとして最適な作品。

はなさかしろうさん

合駒を打たず、玉が走るのが意外で面白かったです。

一乗谷酔象さん

なるほどの玉の突進。短香で香を詰めるのか。

占魚亭さん

面白い詰上り図。

たくぼんさん

初手と2手目が意表を突かれました。
見事な裸玉。

■ 115-5 神無太郎氏作（正解3名）

点鏡協力詰 11手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
								王	七
									八
									九

持駒 歩3

【解答】

18歩 28玉 29歩 81角 92歩成 同角
29歩 81角打 同歩生 29玉 18角
まで 11手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

	歩								一
王									二
									三
									四
									五
									六
									七
								角	八
							王		九

持駒 なし

【解説】

本局から一気に問題の難度が上がります。
本局も裸玉で持駒は歩だけ。しかも入玉型なので、歩だけでは詰みそうにありません。
従って対称位置に強力な駒を打ってそれを入手すること、そして玉を歩にして詰めること。この2つの方針は立て易いでしょう。
しかし、そこから現れる手順は予想以上に華麗なものです。
歩の王手を防ぐなら角か桂。もちろん、角の方が役に立ちます。しかし、初手**18歩**にいきなり**92角**と応じて後が続きません。初手の**18歩**は足場として盤上に残しておき、**3手目**から

「29歩 81角 92歩成 同角」の4手を掛けて92角を発生させるのが巧い手順。この回りくどさが、詰将棋の醍醐味です。

手間を掛けて92角を発生させたので、つついこれを取りに行きたくなるのですが、9手目92ではなく、81の角の方を取るのが重要。92角は盤上に残しておき、18角の性能変化防止に役立ってます。更に81角を歩の「不成」で取ることにより、玉を歩の性能にして詰めやすくします。5手目92歩は「成」で、9手目81歩は「不成」という対比が面白いですね。

詰上りは玉と歩の駒種の違いを除いて点対称。正に「点鏡」の名に相応しい詰上りです。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

初形からは左上のやりとりは予想できなかった。

占魚亭さん

29歩 81角のリポートがいいですね。収束も申し分なしです。

たくぼんさん

遠隔操作の手順が斬新ですね。

■ 115-6 神無太郎氏作（正解3名）

点鏡協力詰 11手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
								玉	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩

【解答】

24歩 86角 13歩成 97銀 22と 88角
33と 13玉 22と 87角成 23と まで 11手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
								と 玉	三
									四
									五
									六
	馬								七
歩 玉									八
									九

持駒 なし

【解説】

本局も裸玉。今度は歩が1枚しかありませんが、入玉型ではないので歩を成れば何か細工ができそうです。

真っ先に思いつくのは、と金を作って駒を入手することです。でも、実際にそれをやってみるとどうなるでしょう？

24歩 32玉 23歩成 87飛 22と 43玉
23と 33X …

これはあくまで一例ですが、どうやら手数が増え過ぎるようです。合駒請求の手段として、飛の代わりに角を使っても、やはり同程度の手間が増えます。となると、1枚も駒を取らないで詰めることを考えねばなりません。玉を弱い駒に変えて、と金で詰めるのです。手順が途切れないように進めると「24歩 86角 13歩成 97銀 22と…」のような手順も見えるので、玉を13に移動させて銀の性能に変え、と金で詰める形が見えてきます。

しかし、この直後に「13玉 23と」としても詰みには至りません。対称位置である87に駒を打って受ける手があるからです。

対称位置に駒を置く受けをどう防ぐのか？

その答えが6手目88角から10手目87角成までの回り道のような手順です。と金を一旦22経由させて88角を発生させ、この角を87に移動させて馬にするのが、23とを無効化させないための伏線手順となっているのです。

本局は玉の周りをと金が動き回る手順の面白さもさることながら、左下で発生する駒の固まりが視覚的な面白さも生み出しています。点鏡の手筋をフル活用した作品だと思えます。

【短評】

変寝夢さん（※無解）
歩の七変化が見事。

占魚亭さん
一周するのかと思いましたが、無理ですよね。

たくぼんさん
8 手目まではわりとすんなり辿り着いたがそこからが盲点で苦戦しました。

■ 115-7 変寝夢氏作
(正解 a) 2名 ※実質 1名、b) 3名)

a) リパブリカン協力自玉詰 4手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
			王	銀					四
									五
									六
									七
							飛		八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし
※28飛及び44銀は中立駒

b) リパブリカン協力自玉詰 4手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
			王						四
									五
				銀					六
									七
							飛		八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし
※28飛及び46銀は中立駒

【ルール】

• 協力自玉詰

先後協力して最短手数で攻方玉を詰める。

• リパブリカン

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。
(補足)

- 1) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 2) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
- 3) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。自玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。
→ 詳しいルール説明や例題は WFP92 号「リパブリカン詰の紹介」を参照。

• 中立駒（「 ♁ 」あるいは「n駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。
取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる（利きが非対称な駒の場合に要注意）
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。
→ 詳細は WFP61 号の「中立駒の紹介」の記事を参照。

【解答】

a) 53n 銀成 同玉 23n 飛成 22n 銀(+33 王)
まで 4 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
							銀		二
			王		王	龍			三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

b) 58n 飛 57n 銀成 46n 全 57n 飛成(+56 王)
まで 4 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				王					三
									四
									五
				王	全				六
				龍					七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

【作者のコメント】

- a) 玉方に渡した n 銀でとどめ
- b) 最終手が狙い

【解説】

a)b)共通の狙いは、自玉を合駒代わりに使うリパブリカン特有の手筋と、普通詰将棋では実現できない近接両王手の詰上りです。

手順は縦と横の両王手の対比になっていますが、a)では銀を相手に渡して（位置を変換し

て）両王手、b)では銀を成銀に変換して（駒種を変換して）両王手を行うという、内容的な対比もあります。ツインとして見事な構成ですね。

なお、中立駒を成るときは常に手番に注意する必要があります。a)はあまり間違える可能性はありませんが、b)での中立飛や中立銀の成るタイミングは勘違いしやすそうですね。

合駒ができないので、両王手の予想は立てやすかったと思いますが、なけなしの銀を（中立銀とはいえ）捨ててしまうのは難しく、a)の初手は相当な心理的抵抗感があったと思います。

【短評】

一乗谷酔象さん

両王手の詰み形がなかなか見つけにくい。
b)が解けて a)の筋が見えた。
a)単独では解けなかったと思う。

☆a)の作者以外の正解者は一乗谷酔象氏のみでした。お見事です。

たくぼんさん（※b)のみ解答）

a)が解けないのはちょっとショック。
初手は 58n 飛しかないと思うし、銀は成らないといけないんだけど・・・

■ 115-8 変寝夢氏作（正解 2 名※実質 1 名）

駒全マネ禁協力詰 7 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
							●		四
					馬				五
					歩	●	●		六
						●		王	七
						桂	飛		八
						角			九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし
※●:石（着手不可、不透過）

【ルール】

•駒全マネ禁

直前の指し手の駒種と同じ駒での着手を禁

止する。

(補足)

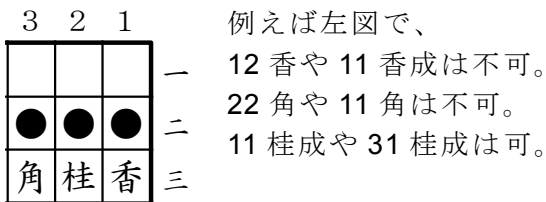
- ・直前の指し手と同じ種類の駒を動かす手でしか詰みを回避するしかない場合や、玉を取る手にもこれを適用する。
- ・成駒と生駒は別種の駒として区別する。
また、直前の手が「成」だった場合、成る前の駒種で判定する。

→参照：WFP132号「駒全マネ禁詰の紹介」

●石 (●)

不透過・不可侵の領域を表す。

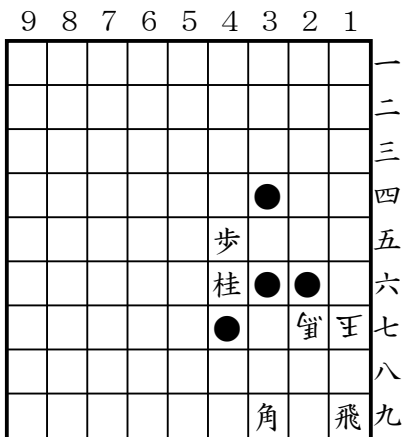
飛び越すことは可能。



【解答】

29 飛 67 角生 45 歩 49 角生 46 桂 27 角成
19 飛 まで 7 手

(詰上り)



持駒 なし

【作者のコメント】

27 を埋めてからの両王手が決め手。

【解説】

前回に引き続き駒全マネ禁の登場。

本局の主役はまったく動かない 39 角と、最初と最後にしか動かない 29 飛。

初手に開き王手をした時、合駒ができればノータイトで飛合や金合を読むところですが、あいにく受方持駒は「なし」。このとき、玉を逃がす平凡な受けではなく、駒全マネ禁らしく角を

動かす受けを読めば、角と飛の両王手で詰める筋はなんとなく予想できると思います。

問題はいつ 19 飛の両王手を決行するかですが、27 地点が埋まっていないと両王手が決め手にならないので、45 角を 27 に運んでからということが分かります。

45 角の運搬ルートは各所で●に塞がれており、46→67→49→27 しかありません。

その間、攻方は手待ちに徹するわけですが、38 に桂を置いたままだと角の移動に支障をきたすので、45 歩から 46 桂と跳んで、角の通り道を空けるのが手待ち時間の有効な活用法となります。

しかし話はこれで終わりません。

27 地点の埋め方が分かったので、これですべてが解決したと思い込むと、最後に恐ろしい罠が待っています。

受方は駒種が一致した状態を維持するために、途中で角を成りません。ただし、最後は角を成らなければいけないのです。『直前の手が「成」だった場合、成る前の駒種で判定する』という細則があるので、成る手も合法手であることは分かりますが、なぜ不成ではいけないのでしょうか？

それは、6 手目も不成だと最終手に対し「18 角生」という受けがあるからです。飛の王手を防ぐ移動合が角の王手も無効化してしまう恐ろしい受けです。

駒全マネ禁では両王手も万能ではないことを肝に銘じておきましょう。

【短評】

一乗谷酔象さん (※誤解)

46 歩の意味を考えれば吉。

☆一乗谷酔象氏は 6 手目 27 角不成の誤解。

不成が続いた後だと成る手は失念しやすいですね。

たくぼんさん

8 手目 27 角生だと 19 飛に対して 18 角で防ぐ手段があるのが凄い。

☆本局の実質 1 名の正解者はたくぼん氏。

特に 27 角生の罠の回避はお見事でした。

■ 115-9 はなさかしろう氏作※早詰
(正解 1)3名 2)2名※実質1名)

最短手数探索 (推理将棋)

各問の n について、最後の n 手が王手で詰む最短手数を求め、その手順を示してください。

問 1 n=2 (※早詰 11 手)

- ① 先後通算 2 連続王手で詰み
- ② 総手数 14 手 (13、14 手目は王手)
- ③ 初手は飛
- ④ 成あり

問 2 n=11 (※早詰 27 手)

- ① 先後通算 11 連続王手で詰み
- ② 総手数 28 手 (18~28 手目は王手)
- ③ 3、6、14 手目も王手
- ④ 成なし
- ⑤ 棋譜表記に「左」がつく手があった
- ⑥ 18 手目は 54 角

【ルール】

• 推理将棋

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【解答】

問 1 作意解

48 飛 54 歩 76 歩 55 歩 同角 34 歩
46 角 66 角 58 玉 57 角生 59 歩 52 飛
24 角 同角成 まで 14 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	季	王	季	爵	科	皇	一
			飛						二
歩	歩	歩	歩		歩		歩	歩	三
						歩	金		四
									五
		歩							六
歩	歩		歩		歩	歩	歩	歩	七
				玉	飛				八
香	桂	銀	金	歩	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

[早詰解] 11 手 (※一乗谷醉象氏解)

76 歩 54 歩 56 歩 52 玉 55 歩 同歩
同角 62 飛 64 角 58 歩 同飛 まで 11 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	季		季	爵	科	皇	一
			王				皇		二
歩	歩	歩	歩		歩	歩	歩	歩	三
			角						四
									五
		歩							六
歩	歩		歩		歩	歩	歩	歩	七
				飛					八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩2

問 2 作意解

76 歩 32 飛 33 角生 同角 77 桂 同角生
48 玉 37 飛生 59 金左 39 飛生 38 飛 42 玉
37 玉 59 角生 36 玉 32 玉 16 歩 54 角
25 玉 36 角 同飛 35 金 同飛 34 銀
同飛 33 桂打 同飛生 同桂 まで 28 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	季		季	爵		皇	一
						王			二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	科	歩	歩	三
									四
							玉		五
		歩						歩	六
歩	歩		歩	歩	歩		歩		七
									八
香		銀		皇	金	季	桂	香	九

持駒 角 金 銀 桂 歩

[早詰解] 27 手 (※一乗谷醉象氏解)

76 歩 62 玉 66 角 84 歩 同角 34 歩
88 飛 同角生 68 玉 97 角生 同桂 77 飛
同玉 72 玉 86 玉 83 玉 73 角成 94 玉
83 角 同飛 84 飛 同飛 85 桂 97 角
同香 96 飛 同香 まで 27 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	飛	香		香	飛	科	皇	一
									二
飛		馬	飛	飛	飛		飛	飛	三
王	飛					飛			四
	桂								五
香	玉	歩							六
	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
									八
		銀	金		金	銀	桂	香	九

持駒 飛 角 歩 2

【作者のコメント】

n=6 (総手数 21 手) や n=12 (総手数 30 手) は割愛し、n=2 と n=11 に集中しました。

n=11 (総手数 28 手) が本シリーズで一番出題したかった手順です。

【解説】

前回 114-3 で出題された「n 回連続王手で詰む」最短手数を求めるシリーズの続編。

前回の「29 連続王手」と「39 連続王手」は、どちらかと言えば連続王手を長く続けるための汎用的な手法を見つけることが求められていましたが、今回は「2 連続王手」と「11 連続王手」ということで、その数だけで成り立つ特殊な解を見つけることが求められています。

結果だけを先に言うと、今回はどちらも早詰でした。作意解が寄せられなかったため、各解について簡単に紹介したいと思います。

まず「問 1」の「2 連続王手」です。

作意は 14 手。角の王手に対して、角の開き王手で返す華麗な手順です。ただ、これは手順が鮮やかな分、準備に手数が掛かり過ぎていました。解答者お二人からは、よりシンプルな 11 手解が寄せられています。また、一乗谷酔象氏からは、この解と同様な手順を作意にした推理将棋が既に発表されている (奥野真作 11 手、詰将棋パラダイス、2018 年 2 月) とのご教示も戴きました。

この 11 手解を適当に加工すれば、問 1 に与えられた 4 つの条件も満たすことができるので、推理将棋としても問 1 は余詰でした。

次に「問 2」の「11 連続王手」です。

作意は 28 手で、3 筋で連続逆王手が行われます。原位置の駒を利用するのではなく、飛を 3 筋に移動して逆王手の駒を取っていく手順は非常に想定しにくく、作者が「本シリーズで一番出題したかった」と述べているのも納得の手順です。

しかし、これにも一乗谷酔象氏から早詰解が寄せられました。一乗谷酔象氏の解は 27 手。原位置の 19 香と 82 飛の 2 つを連続王手に利用し、途中から逆王手の主体が飛から香にバトンタッチする巧妙な手順です。

この早詰は作意とは根本的に異なるので、これを加工しても問 2 に与えられた 6 つの条件を満たすことはできません。従って「問 2」は最短手数探索問題としては早詰ですが、推理将棋としては成立していると思われます (断言はできませんが…)

また、一乗谷酔象氏からは「13 連続王手」を実現する 30 手の解も示されています。作者の研究では「12 連続王手」が 30 手となっていますが、その手順に関しても改良の余地があると考えられるわけです。

今回の結果を見ると、シリーズ物の難しさを改めて感じさせられます。一度に多くの作を同時並行的に検討するため、ノウハウを流用できるメリットもあるのですが、今回に限っては、一作当たりの検討時間が少なくなるデメリットが上回ってしまったようです。

とはいえ、各作品で面白い手順、連続王手を生み出す様々なアイデアが見られたのは収穫でした。フェアリーの草創期には、作者自身もはっきりと最短手数が分からず、解答者による最短手数競争が行われた時代がありましたが、今回の企画は、機械検討ができないこともあって、そんな時代のフェアリーの雰囲気を感じさせるものがありました。

【短評】

はなさかしろうさん

問 1 粗検お詫び申し上げます。

ご指摘ありがとうございます。

問 2 n=11 の 27 手解に完全に脱帽。

参りました。素晴らしい解を知ることができて良かったです。

一乗谷酔象さん

問 1

- ・ ②総手数 12 手として解答
48 飛 54 歩 56 歩 55 歩 同歩 34 歩
58 玉 55 角 53 歩 46 角 52 歩成 同飛 まで
12 手.非限定多数あり
- ・ n=2 の最短 : 11 手
76 歩 54 歩 56 歩 52 玉 55 歩 同歩
同角 62 飛 64 角 58 歩 同飛 まで 11 手
- ・ 既に詰パラ 355 番(奥野真作 11 手。結果稿
2018.4)が出題されています。

条件

- 1)11 手で詰み
- 2)10 手目は王手
- 3)4 筋の着手は 4 手目を含め 2 回
- 4)同の付く着手は 2 回
56 歩 54 歩 55 歩 42 飛 76 歩 55 歩
同角 52 玉 44 角 58 歩 同飛 まで 11 手。

問 2

- ・ 27 手解
①先後通算 11 連続王手で詰み
②総手数 27 手 (17~27 手目は王手)
76 歩 62 玉 66 角 84 歩 同角 34 歩
88 飛 同角不成 68 玉 97 角不成 同桂 77 飛
同玉 72 玉 86 玉 83 玉 73 角成 94 玉
83 角 同飛 84 飛 同飛 85 桂 97 角
同香 96 飛 同香 まで 27 手.
非限定多数あり。連続王手中の合駒は、84 飛
~85 角、96 飛~95 角でもよい。
また、7 手目 88 銀として、83 角~85 銀(83
銀~85 角)、97 角~95 銀(97 銀~95 角)でも
よい。

・ 18 手目からの連続王手

n=13

- ①先後通算 13 連続王手で詰み
- ②総手数 30 手 (18~30 手目は王手)
48 玉 34 歩 38 玉 44 角 26 歩 同角
76 歩 22 飛 同角不成 42 玉 31 角不成 33 玉
24 飛 同玉 13 角不成 同桂 27 玉 37 角成
16 玉 27 角 同飛 26 飛 同飛 25 桂
13 角 同香 14 飛 同香 15 銀 同香 まで 30 手
上記の n=11 の 27 手より 1 手多く指せるの

で 1 枚合駒を入手し連続王手が 13 回に増える。

条件⑥の 18 手目 54 角が想定外で驚きましたが、27 玉-24 玉型に 3 筋の飛車か 1 筋の香車を使う手順が有力であることがわかりました。

作意は未解決ですが、27 玉型を検討しているうち手数短縮できました。

☆一乗谷酔象氏からは早詰解だけでなく、既発表作の情報や、参考になる手順の提示をして戴きました。ありがとうございます。

たくぼんさん (※問 1 のみ解答)

問 1

48 飛 54 歩 56 歩 34 歩 58 王 55 歩 同歩
同角 *16 歩 *14 歩 *15 歩 77 角成 52 歩 同
飛 迄 14 手

56 歩 54 歩 76 歩 62 飛 55 歩 同歩 同角 52
玉 33 角成 58 歩 同飛 迄 11 手

最初に考えたのがこの筋でした。
いろいろ考えましたが作意は分かりません。

問 2

解けません。

☆問 2 は相当難解で、結局作意解答はありませんでした。もし、最短手数探索ではなく純粋に推理将棋として出題されていたら、どんな結果になっていたのでしょうか？



【総評】

変寝夢さん

ある条件（最終手のみとか）の時は相手の駒を動かすことが出来ない **All_In_Shogi** や縦線鏡、横線鏡といったルール名が頭をよぎった。マネ系とともにいつか取り組んでみようかな。

☆実際、一時的とはいえ **fmza** も最初は最終手に対しては **All-in-Shogi** を適用しない仕様でスタイルメイトが実装されていたので、実現は難しくないと思います。「○鏡」は変種がいっぱい作れそうですが、頭がこんがらがらないか今から心配です。

占魚亭さん

今回の3作と **116-4** の不詰、すみませんでした。

たくぼんさん

ほとんどの時間 **115-7a** を考えていたんだけど解けないとは・・・。

☆出題時に「今回は **WFP** 作品展初登場のルールがないので、比較的解き易いのではないかと思います」などと言ったのですが、全然そんなことはなかったですね。担当の言葉はあまり当てにせず、先入観を持たずに解図に取り組んで戴けたらと思います。

以上



推理将棋第120回出題解説

推理将棋第120回解説 担当 Pontamon

担当2回目にして早々と余詰を出してしまい申し訳ありませんでした。
 今回は難問で解答の集まりがよくありませんでしたが、終わってみると前回と同じ19名からの解答で、総正解数は前回は上回っていました。今後も解答、作品投稿をよろしくお願ひします。

120-1 初級 Pontamon 作
 同歩があった 8手

「これが8手で詰めた時の棋譜だよ」
 「同歩なんて手があったんだ」

(条件)

- ・8手で詰み
- ・同歩の着手があった

出題のことば (担当 Pontamon)

8手詰で同歩の手ができるのは先手か後手か？

追加ヒント

後手の着手は8筋の歩だけです。

推理将棋120-1 解答

▲68玉、△84歩、▲78玉、△85歩、▲86歩、△同歩、▲68飛、△87歩成 まで8手

(条件)

- ・8手で詰み
- ・同歩の着手があった (6手目△86同歩)



詰上り図

後手の持駒：歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	王	王	爵	科	皇		一
	飛					角			二
歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩		三
									四
									五
									六
歩	入	歩	歩	歩	歩	歩	歩		七
	角	玉	飛						八
香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	九

持駒 なし

「8手で同歩があった」と聞いた瞬間にあの手筋だと想像される方が多いと思いますが、本問は初級問題ですので初心者のために少し詳しく解説してみます。

8手詰ですので、先手も後手も4手ずつの着手になりますので、相手の歩頭へ取られる駒の着手をしなければ同歩にはなりません。4手しかないのに後手が手数を掛けて先手に同歩とさせては先手玉を詰ますことはできません。後手に同歩と取らせることができる駒には何があるでしょう？

初手▲76歩のあとに▲44角と出て、4手目で後手に同歩とさせることができますが、後手には2手目、6手目、8手目の3手しかないのので先手玉を詰める手順はなさそうです。

参考1図

後手の持駒：歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	桂	銀	金	王	金	銀	桂	皇	一
	飛						角		二
歩	歩	歩	歩		歩	歩	歩	歩	三
									四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	入	歩	歩	歩	歩	七
	角			玉			飛		八
香	桂	銀	金	銀	金		桂	香	九

持駒 なし

参考 1 図は、▲56 歩、△54 歩、▲55 歩、△同歩で 4 手目に同歩を指して、後手は飛を振って△57 歩成までで先手玉を詰めた場面ですが、手数を数えると 10 手かかっています。歩を突いて行って 7 段目で歩成をするには 4 手掛かるので、どの筋にしても飛を振る余裕はなく、先手玉を詰ますることができるのは 8 筋の歩を進めて△87 歩成するしかありません。

参考 2 図

後手の持駒：歩

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	科	駒	金	王	金	駒	科	香	
二		飛							馬	
三	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
四										
五										
六										
七	歩	ス	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八		角	玉					飛		
九	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	

持駒 なし

参考 2 図は先ほどと同様に先後ともに歩の着手を 5 筋ではなく 8 筋で、▲86 歩、△84 歩、▲85 歩、△同歩、▲68 玉、△86 歩、▲78 玉、△87 歩成までの 8 手を指した局面ですが、後手に 85 地点で同歩で取らせると 68 地点の逃げ場を飛で塞ぐ手ができません。

後手には工夫のしようがありませんので、先手の着手を見直してみると、できるだけ早くに同歩を実現しようとして、2 手を掛けて▲86 歩、▲85 歩としたのが無駄だったことに気付けば、▲85 歩を指さずに▲86 歩を後手の歩突きのタイミングに合わせて突けば同歩の着手ができ、先手に 1 手の余裕が生まれるので、玉の退路を自ら塞ぐ▲68 飛を指すことができます。▲68 飛を指すには玉が 78 まで移動している必要がありますので、先手は初手▲68 玉から始めることとなります。あとは後手の歩が△85 歩と来た直後の手で▲86 歩を指すだけになります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

Ponatamon (作者)「担当を引き受けてから慌てて作った初級用問題。」

斧間徳子「実は本作が一番最後に解けました。」

■120-3 の余詰手順の方を先に解いていたとは！?

渡辺「これは有名条件かな？」

■有名過ぎて、正式発表が見送られていたのですかね。

はなさかしろう「手順は脱力系ですが、詰み手順 3420 通り×8 手=27360 表記の中に 1 つしかない、というのはやはり凄いですね。本作の「同歩」を含めて 5 通りあるようですが、これでひと通り作品化されましたか。」

■すみません、「本作を含めて 5 通り」が何のことか思い当たりません。

NAO「同歩で何を取らせるか、一瞬悩みました。」

■角を後手に渡す、▲44 角、△同歩なんかがありそうな気がします。

RINTARO「基本ですね」

■はい、7 手の基本手筋です。

ほっと「例の 7 手の変形。「同歩」だけで確定するのは発見。」

■7 手詰+1 で考えると 1 手の余裕がある玉方しか協力手を指せません。足の長い大駒なら同で取られる駒を差し出す位置はありますが同歩だとこれしかないのです。

小山邦明「自爆となる 86 歩の着手」

■オウンゴール。でもこれがないと同にはならないのでナイスアシストか。

諏訪冬葉「実は以前に「歩を同歩と取った」と

いうほぼ同一作を考えたことがありました。」

■歩以外の駒を同歩と取る手順が他にありそうな気がしましたか。

ミニベロ「館長さんの「だるまさん」を思い出した。」

■過去作を調べたら「8-1 初級 だるま」があったのですね。条件での重複チェックしかしてませんでした。

S.Kimura「飛車先の歩成で詰ます筋を警戒するという勘が残っていたので、簡単に解けました。」

■何か違和感がある条件の場合、まずは7手の基本手筋でチェック。

山下誠「飛車で詰めることに気づけば簡単でした。」

■初級は悩まずに解けるのが一番。

占魚亭「これはひと目でした。」

■でしょうね。客寄せ用の8手ですので。

変寝夢「基本的な7+1手ですね」

■8手詰の全3420通りのうち約3分の2は7+1手ですので。(推理将棋の館の8手分類参照)

飯山修「他の7手パターンで同歩の余裕はさすがにない」

■飛先の歩を突いて行く以外は角道をあける手か53銀で詰めるための協力手の54歩くらい。

津久井康雄「私にはありがたい難易度。2問目以降にも手を伸ばす気になります。」

■初級はウォームアップの役割ですね。

原岡望「例の筋の応用」

■推理将棋で「例の筋」と言われると3本の指

に入ると思う。あとは何だろう、53銀の筋、はてるま手筋、吊るし桂、2枚角、空き王手あたりかな。

神在月生「無駄手を活かして「同歩」の一条件で限定に纏める狡賢さ(失礼・笑)」

■手数を増やして条件を少なくする極意が8手詰?

正解: 19名

斧間徳子さん 渡辺さん はなさかしろうさん
NAOさん RINTAROさん ほっとさん 小山邦明さん 諏訪冬葉さん のくせにさん ミニベロさん S.Kimuraさん 山下誠さん 占魚亭さん 変寝夢さん 飯山修さん 津久井康雄さん 原岡望さん 緑衾さん 神在月生さん

推理将棋第120回解説 担当 Pontamon

「初級にどうぞ」と前担当のNAOさんからの投稿でしたが、ベテラン勢も解図に苦労されたようです。

120-2 初級 NAO作
右へ倣え 9手

「9手で詰まして勝ったんだって?」

「うん。この将棋、右の付く手が3手続いたよ」

(条件)

・9手で詰んだ

・棋譜表記で右の付く手が3手続いた

出題のことば(担当 Pontamon)

右の付く着手を整理しよう。

追加ヒント

最初の「右」の手は51金右です。

推理将棋120-2 解答 担当 Pontamon

▲26歩、△42玉、▲25歩、△32玉、▲24歩、△51金右、▲58金右、△42金右、▲23歩成 まで9手。

(条件)

- ・ 9手で詰んだ
- ・ 棋譜表記で右の付く手が3手続いた（6手目～8手目△51金右、▲58金右、△42金右）

詰上り図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	駒			玉	駒	科	皇	一
	飛				玉	王	馬		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	と	歩	三
									四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	七
	角			金			飛		八
香	桂	銀	金	玉		銀	桂	香	九

持駒 歩

1条件の作品は解図のための情報が少なく、どこから手を付けたら良いのか的を絞り難いかもかもしれません。でも、その1つの条件を糸口にするしかありません。本問ではそれは「棋譜で右が付く着手が3手連続であった」というものです。

3手連続なら、先後先か後先後のどちらかですが、どちらにしても片方は2回連続で「右」が付く着手をしなければいけません。初期配置の駒で即「右」が付く着手ができるのは、▲58金右、△52金右です。どちらが先だとしても次の手番で棋譜に「右」が付く着手をすることはできません。棋譜に「右」や「左」が付く着手を指すための条件は、同種の駒が同じ段に居る必要があるのです。つまり、「右」が付く金の着手を2回連続で指す側は、1回目の「右」の手を指しても同種の駒が同じ段にいる必要があるのです。それが可能なのは、玉を移動させた後で右金が玉の居た地点へ動くのが最初の「右」の着手になり、次の手番では玉位置に移動したばかりの金を左隣の金の頭へ移動する「右」の着手になります。先手が「右」の着手を2回やっけては後手の玉を詰ますことはできないので、3手連続の「右」着手は、△51金右、▲58金右、△42金右になります。

参考1図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	駒			玉	駒	科	皇	一
	飛			王	玉		馬		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	角	歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
				金			飛		八
香	桂	銀	金	玉		銀	桂	香	九

持駒 歩

参考1図は、後手玉を2手目に△52玉とした局面です。先手着手は、攻めの時によくある手順の初手▲76歩、3手目は▲33角不成としてみます。

初手から▲76歩、△52玉、▲33角不成、△51金右、▲58金右、△42金右で3手連続の「右」着手ができました。しかし、33の先手角から見て玉は金の壁の向こう側に居ては残り3手で詰ますことはできそうにありません。

参考2図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科				玉	駒	科	皇	一
	飛		角	王		玉	馬		二
歩	歩	歩	歩	銀	歩	歩	歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
				金			飛		八
香	桂	銀	金	玉		銀	桂	香	九

持駒 歩

そこで、参考2図では3手目を▲44角として、「右」の3手連続のあとに62で銀を取って▲53銀までの詰みへもって行きますが、53の歩が突かれていないので11手かかってしまいます。

参考 2 図の手順：▲76 歩、△52 玉、▲44 角、△62 銀、▲53 角不成、△51 金右、▲58 金右、△42 金右、▲62 角不成、△32 金寄、▲53 銀 まで 11 手

2 手目の玉の位置が悪いのかもしれませんが、△62 玉としても 4 手目からの「右」3 手連続後の残り 3 手では詰みは無さそうです。△42 玉では 2 回目の「右」の着手の邪魔になります。でも盤面を眺めていると、玉移動を 2 手指して△32 玉として 6 手目から「右」の 3 手連続を指すと残りは先手の 1 手だけですが、玉は身動きができない配置になっています。この配置を見れば、▲23 歩成までの 7 手詰の手筋が使えると気付くでしょう。

手順を確認してみると、初手から▲26 歩、△42 玉、▲25 歩、△32 玉、▲24 歩 でこの後に 3 手連続で「右」の着手の△51 金右、▲58 金右、△42 金右。手数もタイミングもばっちり、9 手目の▲23 歩成で詰みになりました。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

NAO さん (作者) 「6 手目 52 金右とすると 8 手目は"寄"となる仕掛け。△52 金右～△42 金右の解答は通常の出題なら○にしたいけど、本問では×ですね。」

斧間徳子 「「右」の手を後手が 2 回やるとは意表でした。」

■少手数で「右」の手が可能なのは金か角。先手が▲58 金右と▲31 角右成までの 2 手を指す場合は 11 手になってしまうし、9 手でおさめようとする△51 金寄になってしまいます。

渡辺 「6 手目 52 だと 8 手目が寄になってしまうことに注意するだけ。」

■確におっしやる通りなのですが、それがなかなか浮かばない。普段から▲58 金右と△52 金右を見過ぎているせいですかね。

はなさかしろう 「たたみかけますね・・・」

■中級で既に気付かれましたか。

RINTARO 「基本の応用。」

■はい、しかも初級と同じ手筋。

ほっと「こっちも例の 7 手の変形だった。6 手目 52 金右だと 8 手目が 42 金寄になってしまう。正しい棋譜表記の知識が重要？」

■日本将棋連盟の棋譜表記は共通言語代わりになります。

小山邦明 「120-1 の先手バージョン。」

■解けてみるとその通りなのですが、条件を見ただけで気付く方は少なかったかと思います。

諏訪冬葉 「「▲31 角右成まで 7 手」の順が最初に浮かんだため角を使わない順にたどり着くのが大変でした。」

■9 手だと「金寄」、「金右」にすると 11 手。

ミニベロ 「ヒント待ち状態でしたが、解けません。どうしても柿木様が「右」と言ってくれません。

やっと解けました。最終角成りの呪縛が・・・。こんな難しい 9 手詰があるとは！」

■「最終角成りの呪縛」は右の角を動かしたのに 33 角引成の棋譜になってしまう手順でしょうか。それだと柿木様は「右」と言ってくれません。

S.Kimura 「右の手の 1 回目と 3 回目は 51 金右と 42 金右しかないと考えていたため、ヒントを見て愕然としました。ただ、もう一度考え直して、玉を金の壁の向こうに前もって動かしておく、という発想につながりました。初級と同じ筋とは警戒が足りませんでした。」

■4～6 手目に「右」を指されたようですね。思っていた通りなのにヒントも同じだと狐に騙された感じ。「6 手目の 51 金右」のヒントだと簡単過ぎますよね。自信を持って考え直せるヒントもありですね。

山下誠「金右が2手続くのは後手と考えれば、すぐに前問の筋が浮かびました。」

■感が冴えていて簡単だったようですね。金右が2手続くのが後手だと睨んでいても引っ掛かる場合もあります。

占魚亭「76歩 34歩 22角生の筋を追って、26歩だとは思いませんでした。」

■短手数で「右」が指せるのは角も候補ですから仕方ありません。

変寝夢「7+2手とは思わなかった。ほとんどの時間を初手76歩に費やしたが、先手の〇〇角右が必要ないことがわかり26歩に行き着いた瞬間1分で解けた。」

■この9手は作者が言う初級では絶対にはないと思う。

飯山修「金以外の駒の右成立に時間かかり過ぎで紛れが少ない」

■角右を入れるには11手かかりますね。

津久井康雄「8手目が「右」になるのかどうか、思わず調べてしまいました。」

■柿木様に聞きましたか？ それとも将棋連盟のホームページ？

原岡望「52金右も正解？」

■将棋連盟の棋譜表記だと52金右の次の42金は右ではなく寄なんですよね。

緑衾「両方上がるときも右になるんですね。気がつきませんでした。」

■隣合わせの同段の駒が斜めに上がるときは「右」か「左」で、直進する場合は「直」になります。

神在月生「まず角の活用を考え42角～31角右成の順ですらすらと詰上げるも…、余詰&寄・引・上（行・直）との兼ね合いに？ 締め切り前ヒントを見てみるとエー！ それから角の活用の筋で色々検討もだめ。原点に戻って7

手+αで考えてみて、なあ～んだ。 すっかり第一問を忘れていた・笑。」

■51金右～31角右成としても玉が52や62だと王手にすらならないです。

正解：19名

斧間徳子さん 渡辺さん はなさかしろうさん
NAOさん RINTAROさん ほっとさん 小山邦明さん 諏訪冬葉さん のくせにさん ミニベロさん S.Kimuraさん 山下誠さん 占魚亭さん 変寝夢さん 飯山修さん 津久井康雄さん 原岡望さん 緑衾さん 神在月生さん

120-3 上級 ミニベロ 作
角にまつわる123問題 12手

12手詰 3条件です。

(条件)

- ・6手目は歩頭の角を取る手
- ・11手目は歩頭に角不成
- ・12手目の両王手で詰み

出題のことば（担当 Pontamon）

2つの角着手条件を整理しよう。
追加ヒント

3手目に取った角を5手目に打ち、後手はこちらの角を同歩で取って10手目に打ちます。

修正

条件：6手目は角を取る手 →6手目は歩頭の角を取る手

推理将棋120-3 解答 担当 Pontamon

▲76歩、△34歩、▲22角不成、△84歩、▲85角、△同歩、▲68玉、△86歩、▲77玉、△95角、▲66角不成、△87歩成 まで12手

(条件)

- ・12手目の両王手で詰み（10手目△95角、12手目△87歩成）
- ・6手目は歩頭の角を取る手（6手目△85同歩）
- ・11手目は歩頭に角不成（11手目▲66角

不成)

詰上り図

後手の持駒：歩

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	王	王	爵	科	皇		
二		飛								
三	歩		歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四							歩			
五	皇									
六			歩	角						
七	歩	歩	玉	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	

持駒 なし

先手は取られた角を取り戻して後手陣へ打って11手目に角不成の手を指し、後手は両王手で詰ますという難ミッションです。

両王手の主役は飛角。後手の飛を世に出すための手筋が思い浮かびます。しかも先手は33の歩を取って飛が出る道を空けつつ後手に角を取らすことができます。

参考1図

後手の持駒：歩2

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	王	王	爵	科	皇		
二										
三	歩	歩	歩	歩	歩			歩	歩	
四					角					
五									皇	
六	歩		歩			歩				
七		歩		歩	翼			歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩

思い付いたのが12手目△57飛成の両王手までの参考1図です。手順は、▲76歩、△32飛、▲33角不成、△同角、▲46歩、△96角、▲同歩、△15角、▲22角、△37飛不成、▲44角不成、△57飛成 までですが、よくよく見ると後手が角を取ったのは6手目では

なく4手目でした。角のやり取りを手番も入れて考えると後手は6手目に角を取って、8手目に打ち、先手は9手目に角を取り戻して11手目に角を打てば角不成は13手目になってしまいます。6手目に取った角を後手から先手へ渡すのはそもそも無理だったのです。

参考2図

後手の持駒：角

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	王	王	爵		科	皇	
二							飛	爵		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四							歩			
五										
六			歩			歩				
七	歩	歩		歩	歩		歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 角

角の受け渡し方法を考え直してみます。次は、▲76歩、△34歩、▲22角不成の手順で先手は後手の角を取って見ます。後手は6手目に22の角を取ることができ、先手も持ち駒の角を5～9手目に打てば11手目に歩頭へ角不成が可能で、2つの角条件をクリアできます。ところが問題がありました。参考2図は▲22角不成のあと△32飛、▲46歩、△22銀で6手目に角を取った局面です。先手は角を打ってから11手目に歩頭へ角不成をすればよいのですが、不成ができる地点へ角を打つには△33角で王手をしなければいけません。参考2図の局面から後手の3手だけでも両王手に持って行くには手数が足りていないのに、王手の応手は無理です。かと言って、先手が▲12角、▲23角不成、▲14角不成などで歩頭への角不成に3手掛けることもできません。

6手目に角を取るという条件クリアのためにはもうひとつの手順があります。それは▲76歩、△34歩、▲22角不成の手順で先手が取った角を5手目に打って後手に同の手で取らせれば、22角不成とした角を11手目に▲44角不成もしくは▲66角不成を指すことができます。

5手目に角を打つ場所と両王手の形を考えてみます。**▲76**歩、**△34**歩、**▲22**角不成、**△**何か、**▲xx**角、**△**同**○**で後手は角を入手し、次の8手目か**10**手目にその角を打って両王手の片割れとして使うことが予想されます。両王手の形としては、飛や香の利きを角で止めておいて最終手で角が動いて両王手するには、玉が飛や香の筋まで移動する必要がある他、飛や香の先にある歩の処理も必要なので手数が足りません。となると打った角の筋に玉が居て、この角の利きを他の駒で止めておいての空き王手で、動いた駒自身でも王手しなければいけないので最終手は駒成になります。角の利きを通す駒は、歩、香、桂、飛のどれかになります。駒成した駒を同玉で取られて逃げられないためには、駒成する駒の支えも必要になります。ここまで考えると角の利きを止める駒は歩で、支えとなる飛が居る8筋の歩を成ることが分かります。**83**の駒が**△87**歩成するまでには4手が必要で、他に角を打つ手も必要なので、2手目の**△34**歩と合わせてこれが限界です。6手目に角を取るには、先手が歩の先へ角を打って**△**同歩と取らせる協力手が必要になります。

△87歩成までの両王手だと、角の打ち場所は**△95**角で確定します。

4手目からの**△84**歩、**▲85**角、**△**同歩が確定します。角は**△95**角なのでその利きに玉があっても**△87**歩成で王手が掛かる位置となると**▲77**玉になります。したがって、**▲68**玉、**▲77**玉が必要です。**11**手目は角不成の手が指定されているので、7手目からは**▲68**玉、**△86**歩、**▲77**玉、**△95**角です。さて**11**手目の歩頭への角不成は**▲44**角不成と**▲66**角不成が可能ですが、正解は玉の退路を塞ぐ**▲66**角不成が**11**手目になり**△87**歩成の両王手で詰みとなります。

斧間徳子さんから余詰指摘があり、条件を修正しました。

ご指摘のあった手順は、

▲76歩、**△32**飛、**▲33**角不成、**△52**玉、**▲22**角不成、**△**同銀、**▲51**角、**△15**角、**▲46**歩、**△37**飛成、**▲24**角不成、**△57**龍 まで**12**手

7手目で先に**▲46**歩を指して8手目**△37**飛成なら、9手目に**▲33**角と打って**11**手目に

▲44角不成や**▲66**角不成も可能でした。

この余詰の手筋は解説の参考1図で検討していたはずなのですが解図力不足による粗検をお詫び申し上げます。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

ミニベロさん(作者)「皆様に大変ご迷惑をおかけしました。深くお詫びいたします。」

■担当の力不足で、好作に傷が付いて申し訳ありませんでした。

斧間徳子(双方解)「後手が飛先を伸ばすのは両王手と無関係そうなので思い浮かびにくい。手順もダイナミックで見事な応酬。」

■角の条件だけなので、飛先の歩を伸ばすのは気付きにくいと思います。

渡辺(双方解)「6筋に飛を回って手が足りてなかった。左右反転すればあらゆる問題が解決。」

■両王手と聞いて、飛角ではなく**43**歩成までの**11**手が思い浮かんで先後を変えてみたのですね。流石ですね。

はなさかしろう(双方解)「**77**玉でしたか〜。駒がよく機能していて気持ち良い詰め上がりですね。」

■解答強豪の4名から早々と余詰手順を報告していただきました。

NAO(双方解)「好作。5手目の角打ちが攻めを加速させる協力手。3手目に角を取って敵陣に角を残す筋でないと先手の協力手**68~77**玉が間に合わないという狙いでしょう。余詰順は先手の協力手が**46**歩の1手で済むので9手目の角打が間に合ってしまった。修正で歩頭条件が入って、取り組み安い易問となりました。」

■**▲76**歩、**▲22**角不成、**▲44**角不成、**△**同歩での角取りが僅かな望みでしたが、歩頭条件でぐっと難度が下がりましたか。8筋以外にも

歩はありますが、やはり飛先の歩ですよ。

RINTARO「両王手の形を考える。3手目までは必然。6手目が5手目に打った角と考えると8筋を伸ばす形が思い浮かぶ。同時に詰み形が見える。5手目に気付くまで1時間は考えました。」

■取る角が5手目に打った角だと考えると36地点が見えそうなんだけど8筋に目が行きましたか。

ほっと「これも87歩成の筋だった。いかにも余詰が怖い条件設定だが、余詰順は発見できず。」

■本来なら見つけていなければいけない余詰筋を検討しながら、担当も余詰順は発見できませんでした。なので余詰作を出題したのですが...

小山邦明「逃げ道封鎖の11手目が大悪手。」

■歩頭への不成は▲44角不成もありますが、11手目まで行っていればここでは間違えないですね。でも3手目に▲22角不成を指した時点では、5手目にこの角を取るのか残すのか、残したとして▲44角不成でなければいけない理由は▲66角不成だと角の利きのために詰まなくなるのかな等いろいろ考えてしまいます。(両王手のことを忘れていて、推理将棋らしい奇手の可能性を考えると)

諏訪冬葉「飛車を使う両王手は手が足りない」「小駒を使う両王手はヒモが必要」なのであきらめかけてました。」

■最初から飛のヒモが付いている8筋の歩突きが間に合いました。

のくせに「追加ヒントで解けました。角ロンドリングで95にワープ。」

■「10手目に打ちます」が効いたかな。「5手目に打った方の角を同歩で取る」のヒントだと足りない気がしたので。

S.Kimura「余詰修正のため、歩突きで角を取らせるといふ発想が思い浮かび、最初は3筋

で、その後8筋で取らせることに至り、解が発見できました。この修正は痛かったですよね。」

■はい、痛かったです。「歩成り」で両王手詰みという案もあったのですが、根こそぎ作意を晒すことになるので「歩頭の角取り」になりました。出題前に担当が余詰を発見していれば、時間を掛けて別条件の佳作が完成していた可能性があるのでは、担当の力不足が申し訳なくて。

山下誠「最終手を三七歩成と決めつけて大いに悩みました。11手目が大きな鍵でした。」

■22の角が歩頭へ角不成となると2択で、何か意味のある手だと考えると玉の退路封鎖に気付きます。

占魚亭「大苦戦。84歩が間に合うとは！」

■角取りの準備をしないといけないときに悠長に△84歩は突き難いです。△84歩は、行き掛けの駄賃になる△85同歩のための準備にもなっていました。

変寝夢「やはり6手目辺りに条件がつくとかなり考えやすいですね。久しぶりに12手の長丁場が解けて気分が良くなりました。」

■手順を絞れる条件がマイルストーン替わりにあれば解き易いですね。その真骨頂が94問題。

飯山修「直前ヒントの追加がほしいがこれ以上は無理か」

■解答の集まりが悪かったのでヒントが足りなかったのかと思いました。ヒントを足すとすると8筋という情報か最終手が歩成くらいしか残ってません。

津久井康雄「34歩を使うものと思い込みしばし迷走。84歩からで間に合うのが意外でした。」

■34歩と突いているので有効活用したくなりますね。

原岡望「飛車を動かすことばかり考え大苦戦」

■飛を動かす手順での余詰がありましたが見つからなかつたようですね。担当は余詰の詰み形はチェックしていたのに途中の手順の変化を見落としてました。

神在月生「飛角だけの両王手は難しいので、飛角歩で考えてみる。最初に歩の勢いから右(36)を考えてしまうが、どうしても手数超。切り替えて左で考えてみると思いの他スナナリ。」

■最初から歩に目が行くのは、歩の遅早の教訓の効果ですね。

正解：18名

斧間徳子さん 渡辺さん はなさかしろうさん
NAOさん RINTAROさん ほっとさん 小山邦明さん 諏訪冬葉さん のくせにさん ミニベロさん S.Kimuraさん 山下誠さん 占魚亭さん 変寝夢さん 飯山修さん 津久井康雄さん 原岡望さん 神在月生さん

総評

斧間徳子「今月は見事に飛先歩成シリーズでした！短編推理将棋のほとんどは角が主役なので、まずは角の手から読む習性がついてしまい、思いの他、解図に時間がかかりました。」

■出題に趣向を入れることができるのもこれが最後かも。

渡辺「飛先の歩成3本。最後だけ難易度が跳ね上ってます(初級、初中級、超上級)。」

■難易度が跳ね上っている3問目のヒントになるかと思い、最終手歩成で揃えてみました。

NAO「古くて新しい形。7手詰基本型もまだまだ発展していますね。」

■余詰が少ないはずなので取っ付き易い。と言いつつWFPで余詰作を投稿してしまいました。

RINTARO「3問とも23歩成の基本7手の応用でしたね。」

■はい、初級はそれとわかるのですが、中級と上級がまさか飛先の歩を進める手筋だとは気付き難かつたはず。

ほっと「似た筋で揃えたのは意図的なものか、それとも在庫がないのが理由か。さて真実はいかに？」

■今回は新旧担当の特集でした。特集にする話はしていなかったのですが、提供いただいた作品で偶然にも歩成の手筋で揃えることができました。在庫温存で121回~127回(年賀の124回を除く)は担当から2題のパターンで出題稿と解説も準備できています。作品投稿があれば順次担当作と入れ替える予定です。年賀推理の投稿がなければ124回は担当作での個展になるかも。

S.Kimura「今回はヒントの加減が難しいのかな、と感じました。」

■上級のヒントの加減が難しかったですね。難問なのはわかっていますがヒントの出し過ぎも興ざめでしょうから。

占魚亭「今回は2と3にかなり苦しめられました。もう少しお手柔らかにお願いします(笑)」

■121回は出題予定を変更して易しくしました。(本当かよ?)

変寝夢「PCなしに全部解けると気持ちいいもんですね。」

■暗算ですか。担当は将棋盤代わりにPCではKifu for Windows、スマホではびよ将棋を使っています。

津久井康雄「中級・上級を追加ヒント無しで解ける気がしませんので、今後も追加ヒントよろしくをお願いします。」

■ヒント前の初級くらいの難易度になるようなヒントを出せばいいのですが...

緑衾「今月は2問だけ残念です。」

■次回以降での全問正解を期待しています。

神在月生「最早解答は無理なので、10日
23:59の最遅解答を狙いました。(というのは
ウソで、パラ9月号に手間取って手が回らな
かった→パラの方は一問だけしか解けず・
泣)」

■担当が推理将棋を始めた頃は、全問正解、ヒ
ント前解答、月末までの解答(当時は23日頃
の出題)、3日以内の解答、一番槍を目指す
という感じで目標を変えて数年過ごしてました。

推理将棋第120回出題全解答者： 19名

斧間徳子さん 渡辺さん はなさかしろうさん
NAOさん RINTAROさん ほっとさん 小
山邦明さん 諏訪冬葉さん のくせにさん ミ
ニペロさん S.Kimuraさん 山下誠さん 占
魚亭さん 変寝夢さん 飯山修さん 津久井康
雄さん 原岡望さん 緑衾さん 神在月生さん

第1回不詰展示会【展示編】

占魚亭

没になった不詰作を2回に分けて展示することになりました(恥の上塗り)。

コメントがありましたら sengyotei@gmail.com までどうぞ。

【点鏡】 55 に関して点対称な位置にある 2 つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。なお、行き所のない駒の禁則は適用されない。

【All-in-Shogi】双方とも自分の手番の時に相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも 1 手前の局面に戻すような着手は禁手。(補足)

1)相手側の駒を動かすとき、自分側の駒を取らせることはできるが、相手側の駒を取らせることはできない。

2)相手側の駒で自分側の駒を取らせたとき、その駒は相手側の持駒となる。

3)自玉を取らせる手は反則。

【協力自玉スタイルメイト】双方協力して攻方玉をスタイルメイトにする。スタイルメイトとは、王手は掛かっていないが合法手のない状態のこと。

※最終手に対して All-in-Shogi を適用しないルール設定です。

その1

点鏡All-in-Shogi

協力自玉スタイルメイト 4手

				王						一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

その2

点鏡All-in-Shogi

協力自玉スタイルメイト 4手

										王	一
											二
											三
											四
											五
											六
											七
											八
											九

持駒 桂

その3

点鏡All-in-Shogi

協力自玉スタイルメイト 4手

										王	一
											二
											三
											四
											五
											六
											七
											八
											九

持駒 角

「第1回 神無太郎の氾濫 問題編」で、『感想等お寄せいただけましたら解答編で紹介させていただきます』と書きながら、感想の宛先を明記していませんでした。
 神無太郎宛 (sgr03057@nifty.com) ですので、どうぞよろしくをお願いします。

<ルール説明>

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【自玉詰】

攻方は自玉を詰めるよう王手を掛け、受方はそれを妨げるよう応じる。

【スタイルメイト】

王手は掛かっているが合法手のない状態にする。

【点鏡】

55 に関して点対称な位置にある 2 つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

[補足]

行き所のない駒の禁則は適用されない。

<問題答>

【2-1】

点鏡協力自玉スタイルメイト 4手
 9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
				王					三
									四
				王					五
									六
									七
									八
									九

持駒 香

58 香 57 角 54 王 56 桂 まで 4 手

占魚亭

基本の桂頭角の形。

たくぼん

「2 手目桂でもいいんじゃないのと思ったら、最後 42.62 に動けるのか。見た目と利きが違う駒が多すぎて頭が混乱しますね。

神無七郎 (その 1)

58 香 57 飛 44 王 66 歩 まで 4 手

玉で王手をして間接的にピン止めをする高級手筋。

更に打歩詰は禁手でも打歩スタイルメイトは禁手ではないことを有効利用してますね。

※余詰か！と一瞬慌てました。

神無七郎 (その 2)

最初に「58 香 57 飛 44 王 66 歩 まで 4 手」の筋が見えたので、(57 香でスタイルメイトになっていないのに) 喜んで飛びついてしまいました。

普通に自玉を桂にすれば良かったんですね。

神無七郎 (その 3)

【2-1】への誤答の筋ですが、単なる錯覚で終わらせるのは勿体ない気がしたので、これを作意にしてみました。

既に太郎さんの出題予定に入っているかもしれませんが、そうでなければ結果稿のネタにでもしてください。

※最終手打歩の作はストックにはありません。というわけで、神無七郎作です。

点鏡協力自玉スタイルメイト 4手
 9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
								王	二
									三
					王				四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

99 角 88 飛 33 王 77 歩 まで 4 手

【2-2】

点鏡協力自玉スタイルメイト 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
王								
								王

持駒 飛

99 飛 92 香 11 王 99 香生 まで 4手

神無七郎

まずは自玉の対称位置を確認。92に合駒を出すには縦からの王手が必要。ということで、横からの王手の紛れは省略できました。

行き所のない駒の禁則が適用されない点鏡ならではの最終形。

たくぼん

2手目普通に合駒してあと2手で終わるスピード感は凄い。

占魚亭

線駒大活躍。今回のベスト。

※好評でした。

【2-3】

点鏡協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1

持駒 金

56 金 54 桂 64 金 同玉 56 王 55 玉 まで 6手

神無七郎

安南でよく見る桂頭玉の詰上り。

でも安南とは詰んでいる側が逆というのが面白いところ。

占魚亭

2-1と類似の詰み形。これも基本形ですね。

たくぼん

56 金 54 桂 64 金 同玉 56 王 53 玉 迄 6手

ルールを協力自玉詰としたら最後 55 玉までになるので姉妹作としても面白い

※たくぼんさんは協力自玉スタイルメイトで解

かれてますね。紛らわしい配列ですみません。

というわけで、たくぼん作です。

点鏡協力自玉スタイルメイト 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1

持駒 金

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

2019年12月10日(火)

推理将棋第122回出題

推理将棋 3題

2019年12月15日(日)

第116回 WFP 作品展

フェアリー作品 12題

推理将棋 1題

Fairy of the Forest #61

協力詰 3題

【締切指定なし】

第1回不詰展示会(占魚亭)

フェアリー作品 3題

2020年2月15日(土)

第117回 WFP 作品展

フェアリー作品 14題

作品募集締切一覧

2019年12月15日(日)

ちょっと早い2020年年賀詰作品展

恒例の作品展です。フェアリー作品、普通詰将棋、推理将棋なんでも可です。

干支は「子」です。

投稿先：たくぼん (takuji@dokidoki.ne.jp)



2019年12月20日(金)

第124回推理将棋出題

第124回(2020年1月13日頃出題)は全投稿作採用の年賀推理将棋特集の予定です。難易度問わず作品を募集します。投稿〆切12月20日。

年末年始、年賀詰("2020", "20", "2", "11", 干支"子"、にちなんだ推理将棋)

TETSUにメール(omochabako@nifty.com)してください。

【あとがき】

左欄に載せていますが、恒例の「ちょっと早い2020年年賀詰作品展」を開催します。2020年という節目の年でもありますので是非作品を投稿頂ければと思います。フェアリー作品、推理将棋、かしこ詰、ブルーゲームなどルール、手数不問です。「2」、「20」、「2020」「R2」「子」「鼠」その他こじ付けでもOK。ユニークな発想の作品を見てみたいものです。

私は例年切羽詰ってから創作にかかってぎりぎりではいるのですが、今年はちょっと早めにと数日前からチャレンジしているのですが、字形の関係が大苦戦中。果たして作品を創ることが出来るのか・・・ちょっと心配です。多分皆さんはすでに取りかかっている(完成してる?)とは思いますがまだの方は早めにお願ひします。是非投稿よろしく、

たくぼん

2019年 第137号

Web Fairy Paradise

非売品

令和元年十一月号

令和元年十一月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先

須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp